

「おおいた型放牧」のすすめ

大分県では、農家生活の身近にありながら、地理的条件や人的要因などによって利用性が低い土地を取り込み、生産基盤として有効活用する放牧形態を「おおいた型放牧」として推進しています。

「おおいた型放牧」の例

1 林間放牧



1950年代から現在の豊後大野市朝地町温見地域を中心に行われている放牧です。

椎茸原木利用のために伐採したクヌギが再生する過程で繁茂する雑草が放牧牛の粗飼料となり、さらに牛の糞尿がクヌギの成長を促す肥料になるなど、林地の管理も兼ねた循環型農業の典型的な形態として確立しました。

2 大規模牧草地での共同放牧



1970年代から1990年代にかけて、広域農業開発事業により久住飯田地域を中心に造成された大規模牧草地を活用した共同放牧です。

県内で100箇所以上の共同利用牧場が建設され、約3,000ha以上の改良草地や飼料畑が造成され、現在でも受け継がれています。

3 耕作放棄地を活用した放牧



近年、農村の過疎化や高齢化を背景に耕作放棄地が増加しています。

耕作放棄地を活用した放牧は、県北地域を中心に広がっています。

耕作放棄地の解消にも貢献し、これまで放牧が実施されていなかった地域でも放牧が行われるようになってきました。

4 集落放牧



水田や里山等、集落にある資源を活用した放牧です。

主に電気牧柵が利用されており獣害対策にも役立ち、近年、県内各地で広がりが見られています。

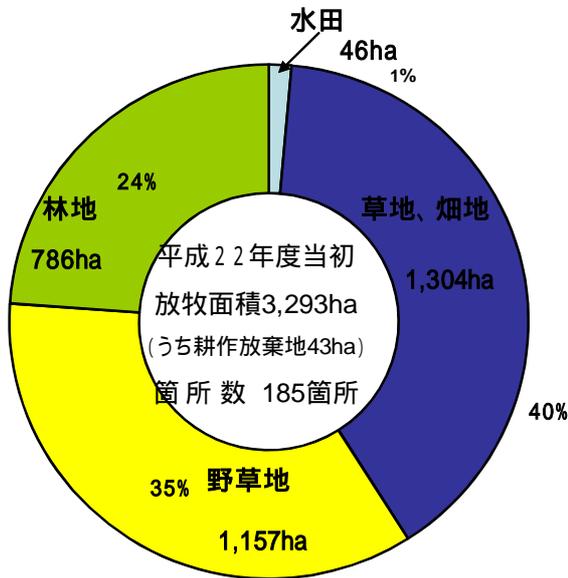
5 育林放牧



針葉樹幼木林地を活用した放牧です。
針葉樹新植地の下刈り労力の軽減、シカの食害防止、再造林放棄地等の植栽の促進にも役立ちます。

「おおいた型放牧」の箇所・面積

1 地目別面積



おおいた型放牧の設置箇所、面積は年々増えています。

<おおいた型放牧の箇所数>

年度	箇所数
H19	155箇所
H20	172箇所
H22	185箇所

おおいた型放牧のうち75%は、林地や野草地等の低利用地を活用しています。